

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2671200364		
法人名	株式会社ケアトラスト		
事業所名	グループホームメイプルリーフ宇治 (ナデシコ)		
所在地	京都府宇治市榎島町本屋敷10-1		
自己評価作成日	平成29年8月7日	評価結果市町村受理日	平成29年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JirvosyoCd=2671200364-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成29年9月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

支え合い、自立、開放、前向きの方針に基づき、利用者の意向にそったケアが、提供出来るように努めている。利用者の意向にそい、個別外出にも力を入れている。月に1回は必ず全体の夕食レクを企画し、気分転換を図っている。ご家族を招待しての敬老会等も開催している。ご家族の協力のもと終末期ケアにも取り組んでいる。室内レクの充実に努め、利用者参加型のおやつレクにも取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は理念の中に開放を謳い、玄関は夜間以外常に開放し自由な暮らしを支援し、日々の散歩や買い物以外にも多くの外出の機会を設けています。月1回の外出レクリエーション以外にも個人々の行きたい場所を聞き食事などの個別外出にも取り組んでいます。職員の意識は高く同じ方向を向き、やりがいを持って連携良く日々のケアに当たっています。会議では前向きな意見が活発に出ており、利用者の理解を深め把握し、歌をうたったり、ギターやマージャン、カラオケ、食事の支度、絵を描くことなど、利用者のできることを引き出し、楽しみ事や生き甲斐に繋げています。家族からの信頼は厚く、日々の面会や動物園などの外出時の他、敬老会や忘年会、新年会などのイベント時には多くの家族の参加があり利用者と一緒に楽しんでもらうなど家族との良好な関係を築いています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作り上げ、誰の目にも付きやすいように玄関に掲示している。ユニット内にも目につく場所へ、理念を掲示している。理念を基に目標を持ち行動している。	法人の理念を基にユニット毎に実施可能な目標を挙げ、目にふれやすいところに掲示しています。新任入職時には理念の大切さについて説明をし意識づけを行っています。半期毎に職員の意見を聞きながら、目標毎に取り組みを振り返り、評価を行い理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の中学から体験学習を受け入れた。小学生の下校時見守り隊の活動をした。近隣保育園との交流も充実している。槇島デイで行なうメイプルカフェに参加し、地域交流をしている。	日々の散歩や買い物時に挨拶を交わしたり、併設の事業所で行うカフェに参加し地域の方と交流を図っています。保育園のイベントの練習時に見学をさせてもらい園児に利用者で作ったコマなどをプレゼントするなどの関わりを持ち、中学生の職場体験の受け入れも行っていきます。近隣の薬局で利用者と一緒にイベント時の飾りつけの手伝いをしたり、地域の様々な集まりには職員がボランティアとして参加しバイオリンの演奏を提供するなど良好な関係を築いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が地域のサロンに参加している。説明会などを催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	具体的に報告し、家族代表者、地域の方等、様々な視点から意見を頂き、サービス向上に活かしている。宇治市職員の参加も要請している。	会議は家族や市職員、民生委員、地域包括支援センター職員、内容によっては利用者等の参加を得て隔月に開催し、スライドを見てもらいながら事業所の活動や行事等の報告を行っています。質問には都度返答しており、得られた意見から職員の写真と名前を入口に掲載するなど速やかに対応するようにしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者等が、市担当者と会う機会を作り、相談等を行っている。	運営推進会議に市職員の参加があり、事業所の理解を得ています。議事録の提出や書類上の手続き、事故報告等で市役所を訪問し、わからないことを聞いたり相談をしています。市から案内の届く会議や研修にはできる限り参加し情報交換などを行っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社の理念にも基づき、開放的なケアに努めている。帰宅欲求が強いご利用者がいる場合でも、その原因を追究し安易に鍵をかける様なケアはしていない。	理念に開放と謳っており、身体拘束についての研修を併設の事業所と合同で実施し、理解を深めています。其々のユニットの玄関や居室の窓は開錠し、外に出たい希望があれば職員が付き添い散歩やドライブに出かけ拘束のない支援に努めています。不適切な言動が見られた場合は管理者等が都度注意をしています。	

グループホーム メイプルリーフ宇治(ナデシコ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体として、虐待の防止に関する研修により学ぶ機会が設けられている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	リーダー研修の時に権利擁護に関する制度の研修を行った。メイプルカフェでも成年後見人制度について行政書士の講習を受け、現場職員も参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護支援専門員が、御家族が納得するまで、説明、話し合いを行っている。現場スタッフも介護支援専門員に密に連絡報告を行っており、説明がスムーズに行えるよう支えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年二回、ケアプラン説明時に機会がある。介護相談員、外部評価、運営推進会議を取り入れ、機会を設けている。	家族からは面会時や運営推進会議等の事業所来訪時、電話等で意見や要望を聞いています。最期までここで見てほしいとの意見がありできる限り看取りの支援をしていくことを伝えたり、外に連れて行ってほしいとの要望から外出の機会を増やすなど、家族からの意見や要望を反映するよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回職員会議があり、意見交換をし、取り入れている。また、定期的に常勤勉強会、職員面談を行っている。また、ユニット会議にも参加し、職員の意見を聞くようにしている。	月1回のユニット会議や日々の業務の中で、職員から前向きな意見が活発に出されています。会議にはほとんどの職員が参加していますが、参加できない職員からは事前に意見をもらったり、会議終了後に内容を確認してもらうなど挙げられた意見は職員間で共有するようにしています。得られた意見から水分補給の工夫をしたり、外出先やイベント事についての提案があり、レクリエーション等に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤は年2回の面談と、自己評価の提出をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2カ月ごとに常勤で事例研究の勉強会を行っている。外部の研修に積極的に参加している。報告書を提出することで振り返りをしながら次の業務へ活かしていく。		

グループホーム メイプルリーフ宇治(ナデシコ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に所属し、勉強会や職員の交換研修に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話を多く持つ様にし、何を思っているのか、どうしたいのか等、聞き出せるように努めている。日々の会話の中で聞きだすこともある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪時には、会話を持つようにし、話しやすい雰囲気を作るように努めている。連絡を密にとる為必要時には電話をし、速やかに情報が伝わるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった際に、必要であれば他のサービスの紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人を尊敬し、色々なことを教えてもらっている。学ばせてもらう気持ちを大切にしている。お礼の言葉も忘れず伝えようとしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	会話の中に若い頃や家族との思い出などを話していただくなどで絆を大切にしていこう努力している。ご家族が遠方の方は、ご本人と月1回電話で話せるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	小規模多機能型居宅介護を利用していたご利用者については、共にレクリエーションをしたり、おやつ作りをする機会を作っている。スタッフと共に長女様宅にお伺いし、数時間過ごす試みもしている。	「もう一度あの場所へ」というテーマを持ち、本人や家族から懐かしい場所を聞き、天満宮の参拝や馴染みの店での食事、好きなカラオケを歌いに行くなど馴染みの場所に出掛ける機会を作っています。また、自宅付近をドライブし、自宅を見に行くこともあります。親戚や友人の訪問があり、居室に案内しお茶や椅子の用意をするなど、ゆっくり過ごしてもらえるよう配慮し今までの関係が途切れないような支援に努めています。	

グループホーム メイプルリーフ宇治(ナデシコ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に外出する機会を作ったり、会話に巻き込んでいき、他利用者と関わっていけるように気をつけている。集団レクの提供時に共同作業をされる場面が多く見受けられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、契約終了後に、継続して関わりを持っている利用者はいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、思いや意向の把握に努めている。一人一人を尊重し、希望や意志を大切にしている。個別レクにも力を入れている。	入居時の面談で本人や家族から生活歴や日々の過ごし方、趣味、好きなことなどを聞きアセスメントシートに記載しています。今までの暮らしなどわかるところは家族にも書いてもらい、病院からの医療情報やケアマネジャーからの情報も加え、思いの把握に繋げています。入居後は日々の会話や様子、表情等から思いを汲み取り、職員間で共通認識できるようケース記録や連絡帳に記載し、会議で本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方にセンター方式の生活歴等の記入をしてもらっている。本人、家族の方から、これまでの生活について、会話の中で聞いている。昔のアルバム等を借り、その方の暮らしや遊び方についても教えて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日どのように過ごしていたか、様子等を個別ケースに毎回記入し、月一回のケース会議、又は、必要時に意見交換している。申し送りを徹底して行っている。申し送りノートを作成し目が届く所に掲示している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族の意向を取り入れ、ケース会議で全スタッフがモニタリングや課題分析を行ったものを計画作成者がまとめ作成している。	本人や家族の意向を基に作成した介護計画は3か月毎にモニタリングを行い、6か月毎に見直しをしています。見直しの際は再アセスメントやサービス担当者会議を行い、事前に聞いた家族や医師の意見等を加味し介護計画に反映させています。変更したサービス内容については赤字で記載し、変更部分がよくわかるようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤者は、必ず一日の様子等を個別ケースに記入、確認し、情報の共有に努めている。また、その記録と職員の意見を元にケアプランの見直しを行っている。		

グループホーム メイプルリーフ宇治(ナデシコ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急を要する場合の病院受診の付き添いや要望に応じたレクリエーションの提供に努めている。定期受診の際、ご家族の車への移乗をスタッフがこなしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で生活していけるよう外出に力を入れている。また地域資源は現在、模索中である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの主治医による月2回の往診、必要時には相談、往診してもらっている。入居前からのかかりつけへ通っておられる方もいる。外部のかかりつけ医に日頃の様子を伝えるため、連絡ノートを作っておりアドバイスももらっている。	入居時にかかりつけ医の継続ができることを伝え、事業所の協力医に変更した方もいます。協力医は月2回の往診があり、24時間連絡可能となっており、利用者の急変時には指示を仰いだり随時の往診や点滴などの対応も可能です。専門医への通院は家族が対応しており、必要に応じて職員が支援し連絡ノートを用い連携を図っています。歯科やマッサージは希望や必要に応じて訪問診療を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	馴染みの看護師と24時間連絡が取れる体制になっている。小規模の看護師にも相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域医療連携室と相談しながら、病状の把握や早期退院に向けた話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアプランの作成時にご家族の意向を確認している。また、ご本人の意思の確認も行っている。方針を立て、ケース会議で統一したケアができるように取り組んでいる。「私の想い」事前指示書も記入に向けて動いている。	入居時に重度化した場合の指針を説明しています。重度化した場合は医師や家族、職員で話し合い、看取り支援の介護計画を作成し方針を书面化し三者で共有しています。家族の頻回な面会など協力を得ながら五感を大切に支援し、最期の方針は家族に委ね病院に搬送することもあります。ケース会議でミニ勉強会や振り返りを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の講習を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。災害時には、地域住民に協力をお願い出来るように文書を出している。夜間想定訓練も実施。ホール内に避難用具を置き、すぐに使用できる状態にしている。	年2回の避難訓練を併設事業所と合同で実施し、内1回は消防署の立ち合いの下、地震からの火災想定や昼夜間の想定で通報や初期消火、避難誘導等の訓練を実施しています。向かいの工場には協力が得られるよう訓練の案内と依頼をしています。大雨の時は水害を想定し2階へ避難する準備をしたり、水やカップラーメン、缶詰などの備蓄をしています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや居室でのドアを開ける際はノックをしている。又、丁寧語や尊敬語を使うように徹底している。	年1回全職員を対象とした接遇や人権についての研修を行い、参加できなかった職員には資料を基に伝達し周知しています。尊厳を大切に日々丁寧語で接し、排泄時の声掛けにも配慮をしています。全体会議で注意喚起を行い、不適切な言葉掛けなど見られた場合は管理者や主任が都度注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何が食べたいか、どこに行きたいか等、リクエストを聞いたり、服を選んでもらったりしている。何かをするときは、尋ねて意思を確認するようにしている。食事・献立作りにも参加を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで生活できるように努め、外出希望がある方には、できる限り応じるように心掛けている。日常の会話で今日はどう過ごすかの希望を聞くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝起床時にご本人に選んでいただいている。外出時には、お化粧を促している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えたり、野菜の皮むき、味付け、盛り付け、後片付けをして頂いている。一緒に買い物に出掛け、選んだ食材をメニューに追加している。	献立は利用者の好みや収穫した野菜を取り入れながらユニット毎に立てています。1日おきに利用者と一緒に食材の買い物に出掛け、野菜の下拵えや盛り付け、後片付けなどできることに携わってもらい、職員も同じ食卓を囲み談笑しながら食事を摂っています。お好み焼きや鍋物、月1回のユニット毎の外食の他、花見などは弁当持参で出掛けたり、おはぎや水無月などの手作りおやつも楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフが、主に皆様の好きな食材を考慮し、一日のバランスを考えながら支援を実施している。水分はお茶やコーヒー、スポーツドリンク等を提供している。		

グループホーム メイプルリーフ宇治(ナデシコ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕食後は口腔ケア。毎食後は食膳の水分補給をしている。また月2回の訪問歯科時に衛生士より口腔ケアを受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のない方のみ、定時トイレ誘導を行い、排泄のタイミングをつかみトイレでの排泄ができるように促している。全利用者の排泄チェック表を作成し、役立てている。	全利用者の排泄記録表を基にパターンを把握し声掛けを行いトイレでの排泄を基本としています。夜間は安眠のためポータブルトイレを使用したり大きめのパットを使用するなど個人に合わせて対応し、ケース会議で排泄用品や支援方法について検討を重ね、パッドが不要になったり、紙パンツから布の下着に変更するなど自立に向けた支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫をしている(食物繊維を多く含む食材の提供など)。腹部マッサージを行う。ホットパック、ホットミルクを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが、時間帯の希望がある方にはそれに応じている。菖蒲湯やゆず湯等も提供している。	入浴は週3回を目途に曜日を決め日中に支援しており、汗をかいた時などはシャワー浴を増やし対応しています。入浴を嫌う方には声掛けの工夫をしたり、職員を変更しタイミングを見計らって無理のないよう入ってもらっています。柚子や菖蒲の季節湯や入浴剤を使用し、うたを歌ったり職員とゆっくりと会話をしながら入浴を楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間にできるだけ活動を促し、夜間ゆっくり眠れるように心がけている。疲れているときは、昼寝を促す。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報シートを使用している。服薬管理表のチェック。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯、買い物、調理等本人の好みに合わせてしていただいている。生け花サークルへの参加者もいる。お孫さんへのプレゼント作りも定期的に行っている。		

グループホーム メイプルリーフ宇治(ナデシコ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	集団での外出にこだわらず、個別に希望を聞くようにしている。喫茶店やスーパー等へは日常的に出かけている。百貨店やカラオケにも出掛けている。	日々の散歩や買い物、地域のサロン、ドライブなどに出掛けています。恒例の初詣や花見以外にも月1回は外出の機会を設けプラネタリウムやデパート、琵琶湖博物館、工場見学などに出掛けており、体力に合わせ行き先を決めるようにしています。動物園や映画村などは家族の参加を得て一緒に楽しんでいます。また、利用者の行きたい所を聞き個別外出にも取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけてとき、本人が選び、支払いができるように見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという希望をかなえるように支援している。精神的に落ち着いて頂けるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	机の上に季節の花を置き、季節感を楽しんでいただく工夫をしている。又プランターで野菜を育てている。その月に合った植物や生き物を壁画にしている。	リビングからプランターに植えられた花や野菜を眺めることができ、壁には利用者と一緒に作成した風鈴やうちわ、折り紙など季節毎の作品を飾り、季節を感じてもらっています。随所にソファを置き、毎日換気や利用者と一緒に掃除を行い、温湿度計や加湿器を置き利用者の体感も考慮しながら快適に過ごせるような共用空間作りに努めています。また、食卓の席は利用者同士の関係性を考慮し変更することもあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士の席を近くし、コミュニケーションをとっていただいている。一人の時間を過ごしたい方は個人の個室へ誘導を促す。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのある家具を持ってこられたり、仏壇を持ち込まれる方もいる。居室の模様替えなどは、本人と共に行う。お気に入りのご家族、本人の写真を飾っている。	居室には、馴染みのある筆筒や三面鏡、テレビ、椅子、扇風機などを持ち込まれ、家族が配置を決めており、時にはアドバイスをすることもあります。仏壇やラジカセ、本、ギターなど大切な物をそばに置き、安心して暮らせる居室作りに努めています。居室は洋室ですが畳を敷き布団で休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー対応。居室の前に表札を掲げている。		